

無菌材料のグラム染色鏡検迅速対応について

◎木下 史修¹⁾、山口 将太¹⁾、山本 大貴¹⁾、松本 玲子¹⁾
地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター¹⁾

【はじめに】

当院は長崎市中心部に位置しており、急性期医療機関として24時間長崎県の医療圏を支えている。臨床検査部では当直制を導入し24時間、365日検査対応を行っている。そこで今回、無菌材料(血液、髄液)から微生物が検出された際の迅速報告について当院における取り組みを紹介する。

【使用機器】

- ・全自動同定感受性検査装置：Phoenix100 (日本 BD)
- ・血液培養自動分析装置：BACTEC FX (日本 BD)

【培養検査法】

血液培養(以下、血培)は検体到着後、BACTEC FX に装填する。陽性判定後、全提出ボトルのグラム染色鏡検を行い、分離培養を行う。発育後、Phoenix100 に装填する。髄液培養は、培養翌日の午前中に判定を行い、起炎性の疑われる細菌は純培養を行う。発育後、Phoenix100 に装填する。

【迅速報告の取り組み】

通常業務時間内の血培は微生物検査室担当者が分離培養後、院内緊急メールにて主治医に迅速報告を行い、髄液培養は

グラム染色鏡検後に直接電話報告を行っている。通常業務時間外(夜間、土日、祝日)の血培は当直当番者が BACTEC FX へ装填し、陽性判定後にグラム染色鏡検、分離培養を行い、主治医(不在時は病棟看護師)に直接電話報告を行っている。鏡検結果品質保持のために血培陽性時の検体処理マニュアルを整備し、随時トレーニングを行っている。通常業務時間外の髄液培養は、微生物検査室担当者呼び出し、グラム染色鏡検を行っている。上記により速やかな結果報告を行える体制を整えている。

【今後の展望】

当院はコロナ禍に全自動遺伝子解析装置 FilmArray (BIOMERIEUX)を導入したが現在は稼働していない。今後は、迅速に微生物を検出でき、抗菌薬適正使用の観点からも効果が期待できる血液培養パネルや、髄液検査で迅速報告が可能となる髄膜炎・脳炎パネルの導入を検討している。

連絡先 095-822-3251(内線 3236)